

令和3年度「COREハイスクール・ネットワーク構想」について

(資料(ポンチ絵)も御参照ください。)

- 令和3年度から令和5年度までの3年間、県教育委員会が文部科学省から委託され、阿賀黎明高校や佐渡島内の高校等で取り組む「COREハイスクール・ネットワーク構想」事業についてご説明します。
- この事業は、中山間地域や離島等に立地する高等学校・中等教育学校における教育環境の改善を図ることを目的に、ICTを活用した遠隔授業や、学校間連携、地元自治体等と連携した教育活動に関する調査研究を実施するものです。文部科学省から事業委託の公募が行われ、新潟県を含め、13の都道府県教育委員会が事業採択されました。
- 新潟県は、佐渡市と阿賀町に所在する高等学校、中等教育学校と、新潟市にある新潟翠江高校とネットワークを構築し、教育環境の改善を図ることとしています。
- 阿賀黎明高校における具体的な取組の1点目は、遠隔授業の実施です。新潟翠江高校が中心となり、多様な教科・科目をネットワーク校に配信することで、多様な科目の開設や習熟度別指導を可能とします。今年度については、秋に必要な機材をネットワーク校に設置し、生徒のニーズに応じた補習から配信する予定です。
- 2点目は、ネットワーク校の学校間連携です。各学校で取り組んできた様々な教育活動を、可能な限りネットワーク構成校で連携して取り組むことで、教育効果を高めることを目的としています。生徒会活動や部活動の交流、探究的な課題研究の共同発表なども想定しています。
- 3つ目は、佐渡市や阿賀町を中心としたコンソーシアムの構築による、教育活動の充実です。現在、佐渡市や阿賀町が中心となって、地元企業や団体、大学等の専門機関などと連携しながら、ネットワーク校の学びを充実させるための環境整備について検討が進められております。ネットワーク校では、コンソーシアムの人的支援等の協力を得ながら、地域の魅力や課題について学び、課題研究活動を充実させていくこととしております。
- 以上の取組を通じて、ICTの活用や学校間連携・地域連携による学びの充実により、生徒がこれまで以上に学ぶ意欲を高め、進路希望実現の支援をしてまいります。
- 保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動に対して変わらぬ御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

COREハイスクール・ネットワーク構想

令和3年度予算額(案) 2.1億円(新規)



地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワークの構築 : COllaborative REgional High-school Network

背景 ・ 課題

中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校においては、地域唯一の高等学校として、大学進学から就職までの多様な進路希望に応じた教育・支援を行うことが必要であるが、教職員数が限定的であり、生徒のニーズに応じた多様な科目開設や習熟度別指導が困難。

複数の高等学校の教育課程の共通化やICT機器の最大限の活用により、中山間地域や離島等の高等学校においても生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援を可能とする高等学校教育を実現し、持続的な地方創生の核としての機能強化を図る。

事業内容：中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校の教育環境改善のためのネットワークの構築

同時双方向型の遠隔授業などICTも活用した連携・協働

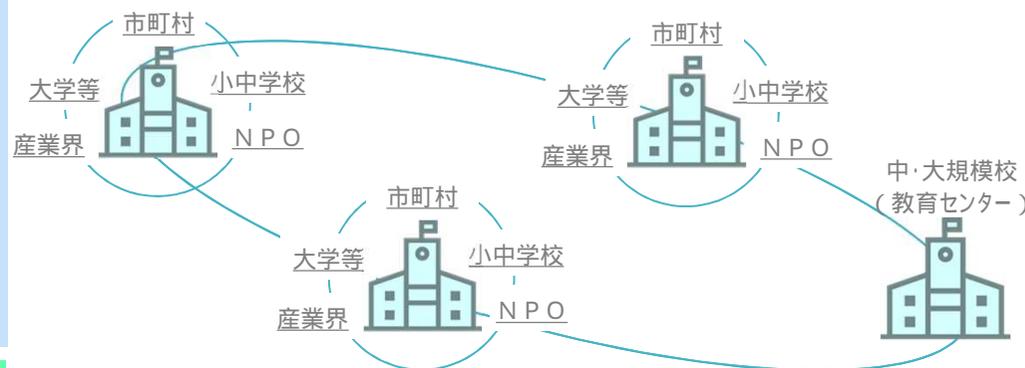
自校では受けることのできない授業の受講を可能化
免許外教科担任制度の利用解消
文部科学省が実施教科や形態に応じた複数の研究テーマを設定し実施

地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築

学校外の教育資源を活用した教育の高度化・多様化
地域を深く理解しコミュニティを支える人材の育成

【事業の検証のための調査研究】

全国展開に向けて、各ネットワークにおける成果・課題を抽出・分析する実証研究を実施



中・大規模校(教育センター)から複数の高等学校に対する「集中配信方式」の実施も推奨

生徒の多様なニーズに応じた質の高い教育実現する高等学校ネットワークのモデルを構築

対象校種	国公立の高等学校・中等教育学校	委託先	学校設置者
箇所数 単価(期間)	13箇所 1,400万円程度/箇所 (原則3年)	委託対象経費	遠隔授業の開発・実施に必要な経費 (人件費、設備備品費、委員旅費、謝金等)

新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

目的

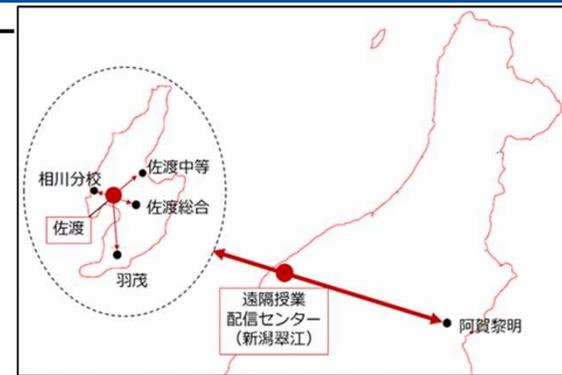
- Sado(佐渡)とAga(阿賀)とSuikou(新潟翠江)のネットワーク7校の取組で、新潟の高校教育の未来を拓く**
- 遠隔授業をとおして、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設を行い、離島・中山間地域の教育環境の充実に図る。
 - 佐渡市、阿賀町両自治体が推進するキャリア教育を基盤として、地域と一体となって有為な地域人材を育成する。

現状

- 本県の人口減少と少子化の急速な進行
 - ・ 若者を中心として社会減少数が全国平均以上
 - ・ 都市部と離島・中山間地域との間の人口偏在（医師の地域偏在を表す指標で全国最下位）
 - ・ 佐渡市・阿賀町の中卒者数は20年前に比べ約半減
- 通学範囲の広さと通学手段の不便さ
 - ・ 離島である佐渡市は、東京23区の約1.4倍の面積に県立高等学校等が5校点在
 - ・ 福島県境にある阿賀町は、県内有数の豪雪地域で、町に唯一ある高等学校以外への通学には30km以上の距離
- 県立高等学校等の小規模化の進行
 - ・ 本県の日全日制及び定時制課程県立高等学校・中等教育学校89校のうち47%が1～3学級（令和3年度募集）

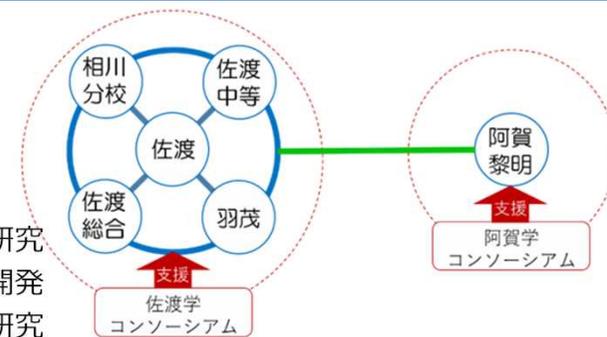
1. 遠隔事業に関する取組の概要

- **新潟市内に立地する新潟翠江高等学校に遠隔授業配信センターを設置し、授業及び補習等を配信**
 - 理科、地理歴史・公民、芸術等の専門教員による授業
 - 国語、数学、英語の習熟度別に対応した授業
 - 大学進学や検定対策など、生徒のニーズに応じた各種補習
- **新潟の魅力や最先端技術を踏まえた授業配信**
 - 本県の地形的・地質的特徴を学ぶ「地学基礎」を教育課程で共通化
 - VRや専門人材の活用を踏まえた「福祉」科目の授業



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- **佐渡学コンソーシアムと阿賀学コンソーシアムの構築**
 - 共通理念は、生徒を「主語」に、大人も「ワクワク」
 - 地域資源の活用や、SDGsを踏まえた「探究的な学び」の充実
- **コンソーシアム内外の学校間連携の推進**
 - 佐渡島内5校による、佐渡の魅力の情報発信
 - 異なった環境に立地する「地域探究コース」同士の交流、共同研究
例：佐渡・阿賀の魅力を知る観光周遊ルートや体験型メニュー開発
：離島・中山間地域が自給できるクリーンエネルギーの調査研究



3. ネットワークを構成する学校

- 新潟県立佐渡高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立佐渡高等学校相川分校(定時制、普通科)
- 新潟県立羽茂高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立佐渡総合高等学校(全日制、総合学科)
- 新潟県立佐渡中等教育学校(普通科)
- 新潟県立阿賀黎明高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立新潟翠江高等学校(定時制・通信制、普通科)